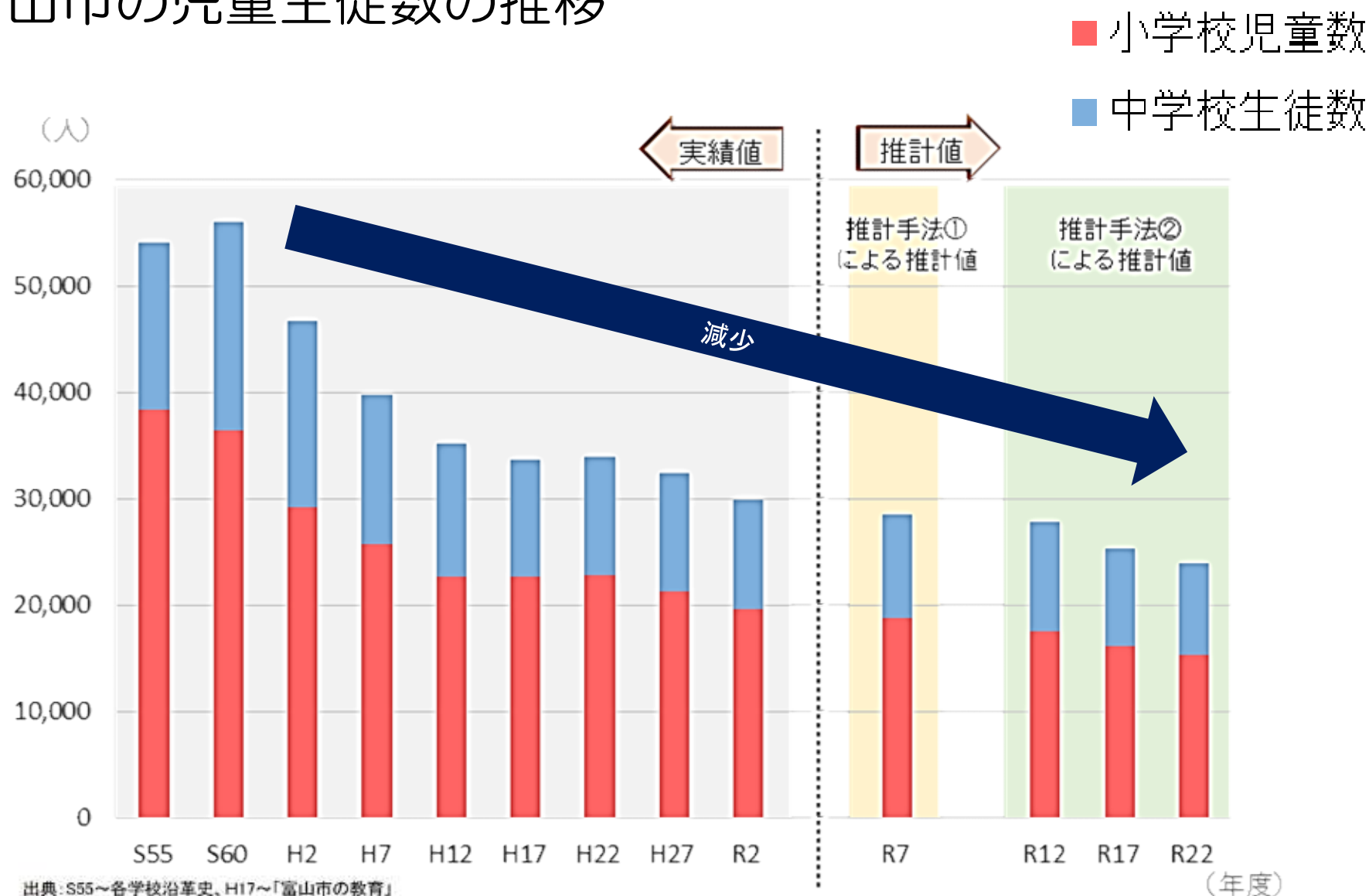


池多小学校の状況等について

富山市教育委員会

■ 富山市の児童生徒数の推移



出典: S55～各学校沿革史、H17～「富山市の教育」

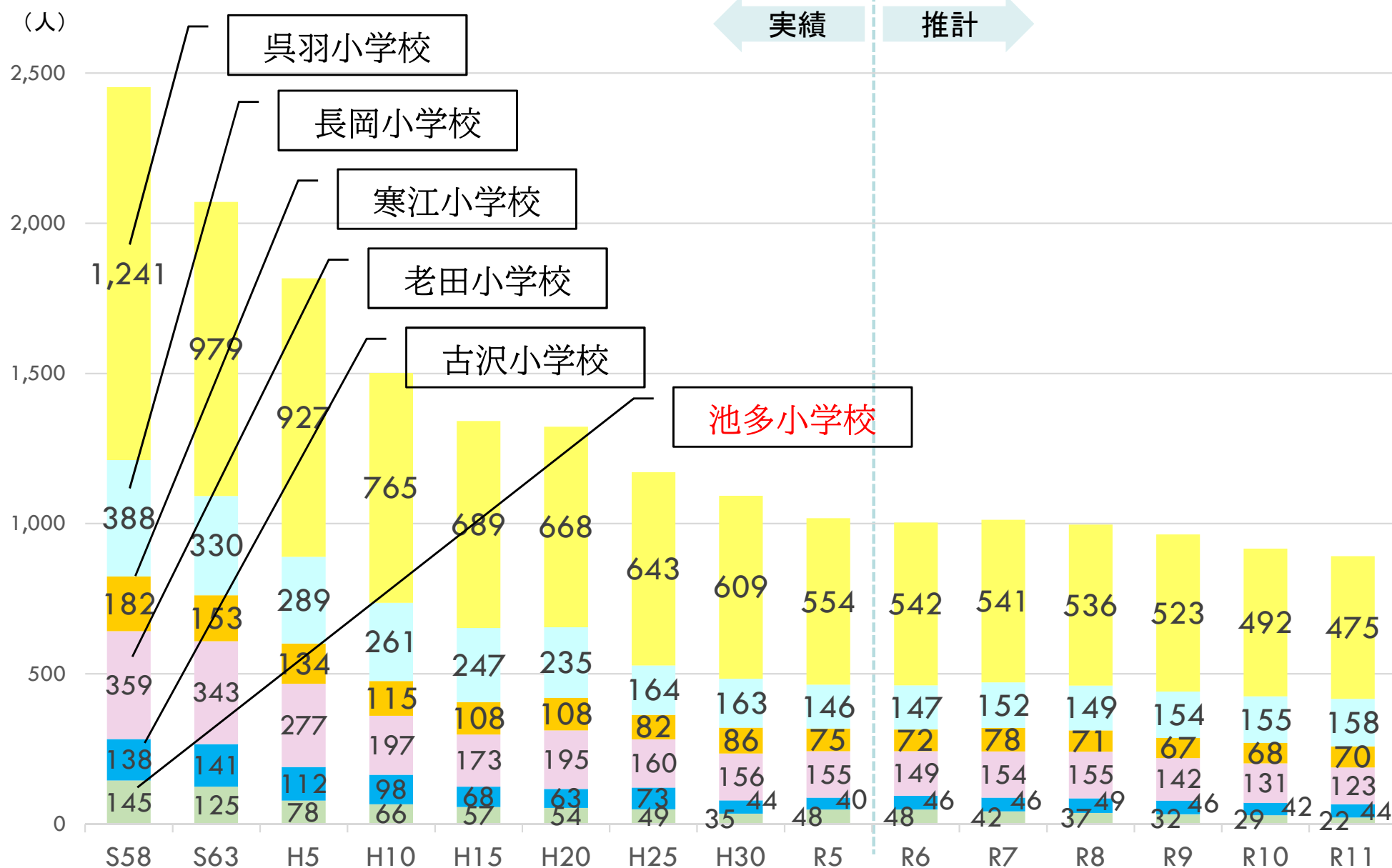
推計手法①: 令和2年度時点における1～9歳の各歳人口を、令和7年度時点における6～14歳の各歳人口とみなして(転出入や死亡による人口の増減を考慮しない)推計したもの。

推計手法②: 平成27年国勢調査の人口データを基に、コーホート要因法により学校区ごとに5歳階級別で人口推計を行ったうえで、6～14歳人口を抽出して児童生徒数の推計値を算出。

さらに、推計手法①と推計手法②の推計値の差分を以下の補正値により補正したもの。

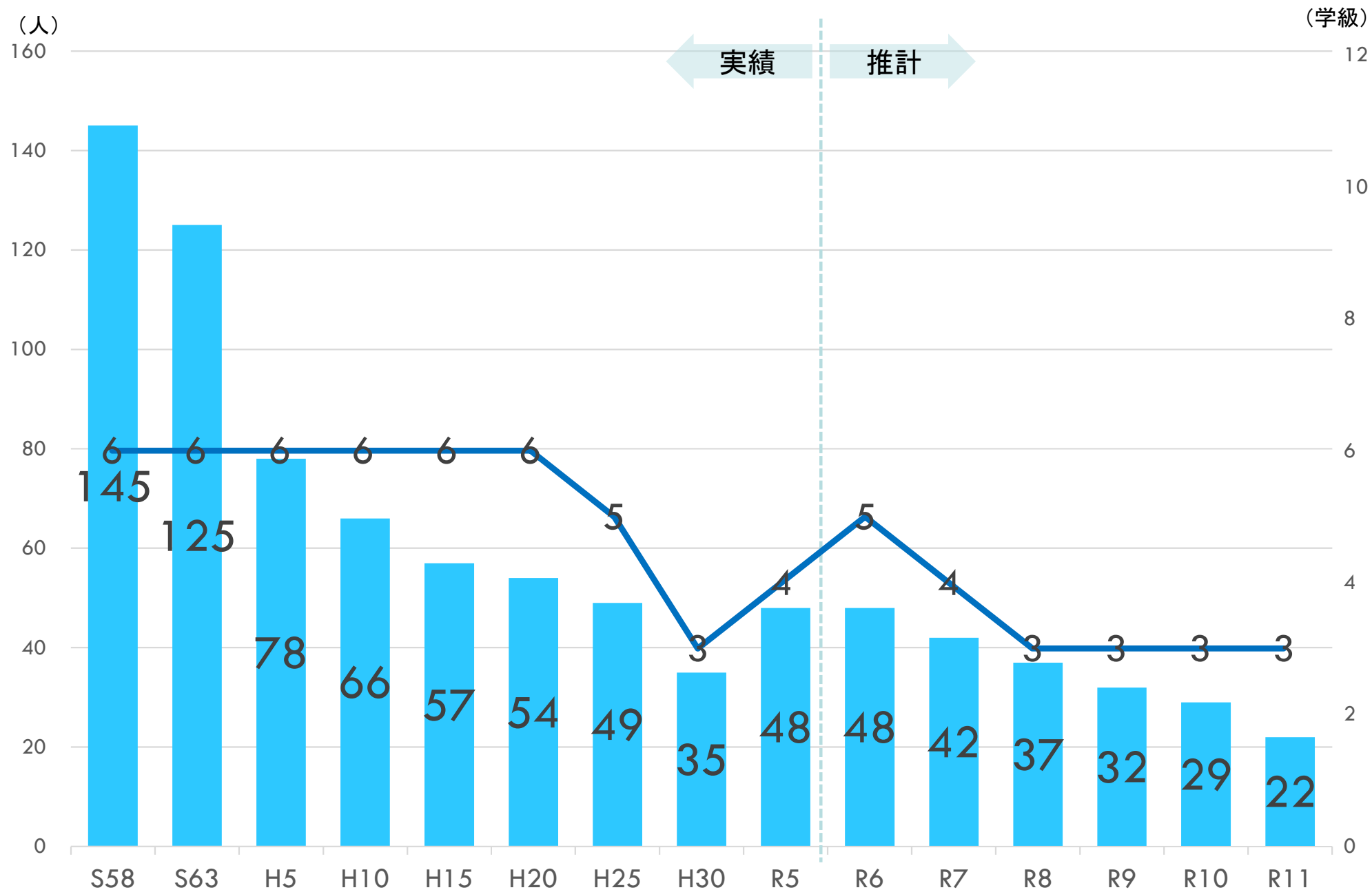
(補正値) = (推計手法①による令和7年度の推計値) / (推計手法②による令和7年度の推計値)

■古沢・池多・老田・寒江・長岡・呉羽小学校の児童数推移（S58～）



令和6年度～：令和5年5月時点の住民基本台帳上における呉羽・長岡・寒江・老田・池多・古沢小学校区の未就学児人数による推計

池多小学校の児童数及び学級数推移（S58～）



令和6年度～：令和5年5月時点の住民基本台帳上における池多小学校区の未就学児人数による推計

■小規模校（複式学級）の授業風景



算数の授業風景 (1・2年生)

前後で学年を分けています。

算数の授業風景 (3・4年生)

左右で学年を分けています。



######

再編する学校の姿



※〔 〕内は進学先中学校
※〔 〕内は学校規模
※再編の組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4（1）、（3）及び（4）に基づき
※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

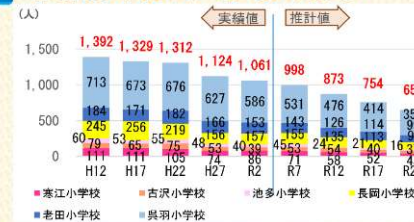
該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

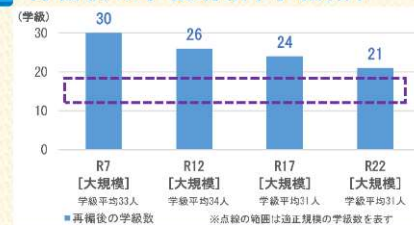
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
※赤文字は児童生徒数の合計
※令和2年以前は富山市の教育に拠られている児童生徒数
※令和7年以降はコーホート変化率法に基づき推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



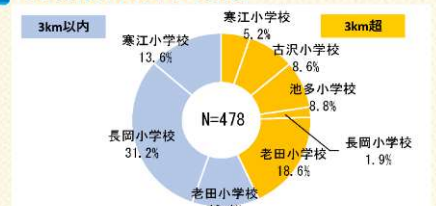
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
大規模：学級数が19学級以上
小規模：学級数が11学級以下
※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
※学校平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

施設	大規模改修済	屋根・壁・外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
総合 (建築年数39年)	-	C	B	B	B
体育館 (建築年数35年)	-	B	B	B	B

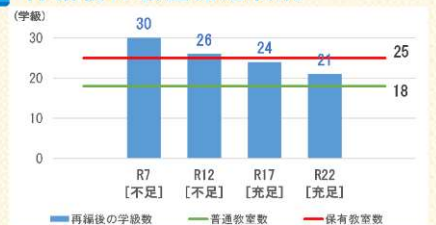
A：概ね良好
B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。
不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。
※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
※コーホート変化率法に基づき推計児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
(洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても大規模校となる。
- 【必要教室数】令和7、12年は教室数は不足しているが、令和17、22年は教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）内に位置する。

【統合ケース別】統合にかかる年数とメリット・デメリットについて

○ケース①「呉羽地区の小学校が一斉に呉羽小学校へ統合する場合」

統合にかかる年数	メリット	デメリット
最低でも 10年以上	・ 呉羽中学校区として一斉に統合することにより、統合を繰り返すことがない。	・ 統合時期は、当分の間は統合しても大規模校となることから、適正規模での統合が可能となるまで年数がかかり、その間複式学級が継続となってしまう。

○ケース②「池多小学校、古沢小学校の2校で統合する場合」

統合にかかる年数	メリット	デメリット
最短で 2年程度	・ ケース別の内、最も早く統合が実現できると想定され、短期的には複式学級の解消が見込まれる。	・ 一時的には複式学級の解消が見込まれるが、最短で令和11年度より再度複式学級の発生が見込まれ、再度の統合が考えられる。

○ケース③「池多小学校、古沢小学校、老田小学校の3校で統合する場合」

統合にかかる年数	メリット	デメリット
最短で 3年程度	・ 比較的短い期間で統合が実現できると想定され、一時的には複数クラス（1学年あたり2クラス）の編制も可能となり、複式学級の編制は当分の間は見込まれない。	・ 児童数の減少により、いずれは再度の統合が考えられる。